



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第19回例会(11月29日)
令和元年12月6日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 会 長 西島光茂
川徳デパート内 幹 事 勝 雅行
例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111(代) 会 報 金沢 滋
例 会 日 毎週金曜日12時30分～ クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682
http://www.morioka-rc.jp/ FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ ROTARY CONNECTS THE WORLD:ロータリーは世界をつなぐ...マーク・ダニエル・マローニー
盛岡RC会長テーマ 令和元年:世の為、人の為、奉仕を続け、輪を繋げましょう-西島光茂



新入会員卓話

損保ジャパン日本興亜とデジタル戦略について

損害保険ジャパン日本興亜(株)岩手支店 支店長

上野 好章 君

1. 損保ジャパン日本興亜の紹介

損保ジャパン日本興亜は、来年2020年の4月にあらためて社名変更し「損害保険ジャパン」(損保ジャパン)となります。これまで日本の歴史の中で合併を繰り返してきた当社では、本年度、あらためて社内全職員向けに下記の文化・風土の再確認と徹底を図っています。

- ①「私たちの存在意義」は、「お客さまの安心・安全・健康に資する価値ある商品やサービスを創造し、社会に貢献し続けていくこと」であること。
- ②「目指す企業文化」は、「徹底してお客さまの立場で考える風土」「創造性・独創性を発揮できる自由闊達な社風」「決断と実行のスピードを尊ぶ文化」であります。

損保ジャパン日本興亜は、2014年9月に存続会社を安田火災とした損保ジャパンと、日本興亜が合併した会社ですが、それぞれ過去に合併を経験しています。「安田火災」の創業は明治20年。日本初の火災保険「東京火災」として誕生しました。契約者を24時間365日体制で火災から守るという「お客さまサービス」の精神から、正式に認可された唯一の私設消防団として「東京火災消防組」を結成し、“とびぐち”マークの付いた法被を着て、ちょうちんや“とびぐち”を持って消火に駆けつけました。

その後、安田財閥を一代で築いた安田善次郎が「火災保険は社会に不可欠」として、銀行・保険の経営に乗り出し、昭和19年に「安田火災海上」が誕生しました。日本火災は、大阪財界人と「北前船(きたまえぶね)」の心意気を継いだ船主たちが時代の奔流の中で一つになり、昭和19年に「日本火災海上」として誕生しました。

興亜火災は、昭和29年、ケガで生活に困る人を救い、より多くの幸福を届けるために誕生した、日本における傷害保険のパイオニアとして誕生しました。

そんな損保ジャパンの「昔と今」という観点から、現在そして将来に向けた戦略の一つをご紹介します。

ここ数年の頻発する自然災害や目まぐるしい環境変化については、保険会社に限らずさまざまな対策や対応が必要になっています。当社が中期経営計画において「デジタル戦略」として進めている“デジタルトランスフォーメーション”の一部をご紹介します。

2. SOMPOグループのデジタルトランスフォーメーション(DX)

現在、当社は、中期経営計画のなかで、「デジタルトランスフォーメーション(ITの推進が人々をより良い方向に変化させる、という概念)」を進めています。これからの時代は、Digital Disruption

(デジタル・ディスラプション：デジタル化の技術革新に伴う商品や製品が変化する)の時代です。すなわち、すでにある産業を根底から揺るがし、崩壊させてしまうような革新的なイノベーション(技術革新)の時代=デジタルテクノロジーによる破壊的イノベーションの時代と言われていますが、当社ではその来たる時代に向けて、自ら積極的にデジタルトランスフォーメーションを仕掛けていき、その対応力をコアコンピタンス(企業の中核となる強み)とする「真のサービス産業」グループを目指しています。

経済産業省が2018年12月に発表したDX推進ガイドラインでは、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」と定義しています。

身近なところでは、フィルムカメラがデジタルカメラになるツールのデジタル化が起り、オンライン上でその写真データが送受信できるようになり、その結果として新たなサービスやビジネスの仕組みが生み出され、SNSで写真をシェアする文化という社会的な影響をもたらすなど今や多くの変化が起きています。

数年前から当社のスローガンに“保険の一步先へ”というキーワードを掲げていますが、すごく乱暴に言えば、このような時代にあっては、もはや「保険屋では生き残れない」⇒「環境変化に対応しうる保険以外のサービスを提供することで、お客さまに選ばれ生き残る」企業にしていこうということなのです。

3. インターネットでつながるクルマ

これまでは、災害や事故の発生頻度やその実態、被害状況などのデータを集めて保険料を決めていましたが、これからは、IoT(モノのインターネット化)により、リアルタイムでの動的データ連動による分析などが必要になってきます。豊田章男・トヨタ自動車社長は、ソフトバンクとの共同出資会社「モネ テクノロジーズ」の設立記者

会見の席で、「100年に一度の大変革を迎えている自動車産業が、その変化を起こしているのはCASEである」と話されており、さらには「コネクテッド・自動化・シェアリング・電動化といった技術革新によりクルマの概念が大きく変わり競争相手も競争ルールも大きく変化している。これからのクルマは、あらゆるサービスと“つながる”ことによって社会システムの一部になる」との考えを示されていました。

現代の「インターネットで“つながる”クルマ」には、クルマ自体に組み込まれた通信機能、または、ドライブレコーダーから集められた運転データなどさまざまなビッグデータが5Gで一瞬のうちに収集・蓄積され、そのような動的データは今後、リアルタイムに利活用され、即時に事故予防運転のための助言や注意勧告などを発し衝突を回避することなどにつながっていきます。

すでに始まっている現代の「インターネットで“つながる”クルマ」には、クルマ自体に組み込まれた通信機能、または、ドライブレコーダーから集められた運転データなどさまざまなビッグデータが5Gで一瞬のうちに収集・蓄積され、そのような動的データは今後、リアルタイムに利活用され、タイムリーに事故予防運転のためのアドバイスや注意勧告などを発し、衝突を回避することなどにつながっていきます。

さらには社会システムの変革によって、保険会社の分析方法やプライシング(価格の設定)そのものが大きく変化していきます。デジタル化によってリスクが「見える化」してくるにより、いわゆるリスクマネジメントの考え方に置き換えると、「リスクの転嫁」といった保険の役割は大きく変化し、IoTによるリスクの回避・極小化に向けたソリューションの提供が主たる役割・使命になってくるものと考えています。つまり、保険会社はリスクの転嫁といった保険引受業務だけでなく、リスクの回避やリスクの減少に向けたソリューションをお届けしていくサービス業へ変化していくことになります。

身近な例では、お馴染みのドライブレコーダーやスマートホンと連携させた運転挙動データの収

集・蓄積といったツールにより事故の発生頻度を低下させ保険料の低減を図ってもらう取り組みなども進めています。また、高齢者ドライバーの安全運転のため、国立長寿医療研究センターと包括連携協定を締結し、返納か延伸か？のモノサシのないことが問題となっている高齢者の自動車運転寿命についてもドライブレコーダーでモニタリングし「運転寿命の延伸」をサポートする取り組みなども行っています。

来年の東京オリンピックでは、最寄り駅から会場までの区間を「レベル4」の自動運転で人を運ぶ予定とされていますが、“安心・安全な自動運転サービス実証を支える”インシュアテックソリューション（保険と技術革新を組み合わせた造語）として、当社とティアフォー、アイサンテクノロジーが業務提携し自動運転実証の実施に必要となってくる事故の予防・監視・補償といったソリューションをパッケージにした「Level IV Discovery」を共同開発しています。急な故障やシステムトラブルを保険で救うには限界があるため、イザというときに、火星探査機を地球上のNASAから遠隔操作するような手法を安全対策として用いた自動運転サポートプラットフォームを開発し、「事故に備えたSOMPO」から「事故を防ぐSOMPO」へ進化していきます。

多くの自治体では、費用や人材、専門的ノウハウの不足などから、自動運転の実証実験やモビリティサービスの実用化に向けた具体的な検討が進まず、完全自動運転車が商用化されてもモビリティサービスを実現できない自治体が多数発生するといった懸念があります。当社では、今回の業務提携を「自動運転モビリティ導入支援事業」と位置付けて、各自治体がモビリティサービスを低コスト、安全、迅速に導入できるよう支援するためのサービス構築を目指しています。

さらに、現在課題となっている台風などの自然災害について、まずは迅速に保険金をお届けする社会的使命を果たすべく全社で取り組んでいますが、保険会社が保有している過去からの膨大な災害実態データを使って、「災害に強い街づくり（防災・減災）」にできると考えており、当社がラボ

を置くシリコンバレーのベンチャーキャピタル“ジオデシック社”やスタートアップである“ワンコンサーン社”、お馴染み“ウェザーニューズ社”と組み、地方自治体との連携による防災・減災の実証実験も行っています。

4. クルマに乗らない個人の拡大とそのほかのリスク

一方、MaaS（ICTを活用した交通のクラウド化）時代に向けては、CoCビジネスとしてDeNAと組んだカーシェアリング事業も展開しています。平日にはクルマに乗らない個人が平日にクルマを必要とする個人にマイカーを貸す仕組みはますます広がっており、盛岡でも老舗の“Timesカーシェア”のステーションが増えています。このような仕組みがますます活用される社会になっていくものと思われれます。

また、クルマを手放し「空き地」になった自家の遊休スペースを遊びや仕事で付近を訪れた人に一時的に貸すことで遊休地の利活用や提供者の収益につなげる仕組みも拡大していくと思われれます。当社も“Akipa社”と組むことでこのような事業に参画しています。これらもまさにインターネットを介したつなげる（つながる）サービスの一つです。

また、今後10年間でますます高まるサイバーリスクについても、イスラエルのテルアビブにラボを設置し、多くの敵国に囲まれた地域における自己防衛の手段や知恵、技術を学び、グループのSOMPOリスクマネジメント社内ですerverセキュリティに関するコンサルティングをはじめとした専門的な事業を展開しています。日本におけるサイバーセキュリティに関する意識や対策は、先進諸外国に比べて圧倒的に低いと言われている現状において、企業・法人のお客さまへ最適なソリューションをご提供しています。

以上、これからの環境変化に適応した保険以外のサービスを提供する「真のサービス産業」に向けた当社の取り組みの一部ご紹介させていただきました。ご静聴ありがとうございました。

東京支部だより

令和元年は話題がいっぱい！ ～支部忘年会～

街のライトアップが始まった11月25日、東京支部の忘年会が今年も飯田橋のホテルメトロポリタンエンドモント東京で15人が参加し、開かれた。和食のコース料理といわてのお酒といわての話題で和気あいあいのひと時を楽しんだ。

秋に発生した東日本の台風、釜石復興スタジアムでも行われたラグビーワールドカップ、新天皇誕生の一連の行事等 話は尽きなかった。中でも南部さんが取り組んだ講演会には質問が集中した。テーマは「南部藩と武士の道」で学習院の公開講座とNHK青山講堂で行われ多くの受講者を集めた。是非、来年支部で講演会をとの企画が提案された。長時間の講演をダイジェストにし、終了後懇親会に切り替え実施、時期と場所を研究することになった。



宴会の途中、ラオスから帰国したばかりの西島会長より、TELが入り大いに盛り上がった。西島会長「声の参加」有難うございました。来年あたりには数人のメンバーがセカンドステージに入るとの報告もあったものの支部は変わらず「ONE TEAM」で交流を楽しみます。お世話になりました。

(文責 小西 隆昭)

例会報告

第19回例会
令和元年11月29日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 西島光茂会長
- ・ロータリーソング
(手に手つないで)
- ・会長報告 西島光茂会長
- ・結婚祝 近藤一英・佐藤重昭君
- ・幹事報告 勝 雅行幹事
- ・委員会報告
国際奉仕委員会 岡村弥委員長
ラオス・カーシー郡病院 医療器具
支援のための渡航帰国報告

【ニコニコBOX】

- ◆石田亨君…(1)
台風19号で運転を見合わせていた八戸線の階上～久慈間が、12月1日(日)から運転再開します。また11月30日(土)からは、埼京線と相模鉄道が相互直通運転を始めます。これにより、海老名から小田急線を使わなくても一本で新宿ま

で行けるようになります。一体どのようなルートで直通運転をするのか、実は私は良く判っていません。興味ある方は一度、ご利用ください。

(2)
今日、出席の皆さまに「SL銀河カレンダー」をお配りしました。盛岡支社オリジナルで、写真は全て当社社員の撮影です。今年の「SL銀河」の運転は、今週末で終了します。来年3月に、オリンピックの聖火輸送をこの「SL銀河」で行う予定です。

- ◆藤村吉隆君…この度、先人記念館の企画で弊社所有の資料を提供させて頂きました。ほぼ門外不出、延べ4回の調査では私も見たことがなかった物もありましたので、この機会にご興味のある方はぜひご覧ください。主に山車の番付の古いものや写真、仏像、工具などで、もっと古いものや、これはというものもあったのですが、若い学芸員のセンスで選抜されていきましたのでマニアックな展示かも知れません。第13回盛岡の古町名展「下の橋界

隈」として12月7日～来年2月16日まで開催です。

おかげさまで古い資料を整理する機会となり、たまにはこういうのもいいなと思いましたのでニコニコします。

- ◆西島光茂・岡村弥・勝雅行君…「ラオス・カーシー郡病院への医療器具支援ミッション」無事、届ける事が出来ました。郡の市長はじめ、村長、院長、村の多くの人達に迎えられ、心温まるセレモニーも開いて頂き、大変喜んでいただきました。会員の皆様のご理解とご協力に感謝してにこにこします。
- ◆熊谷隆司君…西島会長、勝幹事、岡村委員長、ラオス・カーシー郡病院への訪問ご苦勞様でした。無事の帰国でお喜びいたします。

- メークアップ
仙台青葉RC=橋本君
地区=田中君
盛岡北RC=福田・佐藤(義)君
盛岡西RC=赤沢君
クラブ委員会=藤村(吉)・畠山・勝・大久保・白石・安川君

出席報告 会員数/76名 | 出席数/50名 | 出席率/66.22% | 前々回/78.08%



プログラムのお知らせ

- ・12月6日(金) ゲスト卓話 赤坂環様(ミニコミ誌「てくり」編集者) 『「てくり」の15年と取材を通して見た『盛岡』』
- 13日(金) 年次総会

●本号編集担当/金沢 滋